

第4回富山市市町村合併検証委員会
議事録

日時 令和4年12月26日（月）14:00～16:15
場所 富山市役所 8階大会議室
出席者 下記のとおり

1 開会

2 議事

- (1) 「合併検証に関するアンケート調査結果」及び「『富山市の合併』の検証(報告書(案))」
について
事務局から説明

意見交換

委員

- ・ 全体的に、アンケートの分析に基づいて方向づけがされている点が良い。
- ・ 報告書(案)の若年層の意識やコミュニティの在り方に関する記述について、過疎地域からの若者の流出は必然の流れであるが、一方、都会からそのような地域に移住する人も増えている時代に、その地域の価値は何なのか、ということが感じられる表現になるとなお良い。

事務局

- ・ 表現方法については検討したい。

委員長

- ・ まちの活気や道路の状況については、アンケート調査実施前からある程度不満が高いと予想しており、結果もそうであった。また、これまで実施してきた世論調査の動向では、若者のほうが行政に対する不平不満を持っていることが多かったが、今回の調査では中高年のほうが多く、若い世代ではその度合いが比較的低くなっているのが新しい流れとして捉えられた。これをどのように政策に活かしていくのかについては、強弱をつけず、総括にも示した4点を課題として取り組んでいくべきと考えている。
- ・ 調査結果にも表れているが、人口規模が小さいところでは、地域活動に取り組んでいる人が多い印象がある。これは地域コミュニティの魅力として捉えられる反面、若い人には負担になり参加したがる側面もある。

旧富山市の中でも町の活気が薄れてきたことを不安に思う人も多いため、一定程度の人口規模を維持する取り組みを大きく掲げ、併せて公共施設の維持や持続的な

行財政力を整えることも必要である。その際には、類似施設の見直しや老朽化対策も検討する必要がある。

委員

- ・ アンケート調査結果によると、中山間地などの中心部から離れた場所ほど不満度が高いように思うが、これは今回検証した結果明らかになったことであり、これを今後の市政にどう反映していくかを書くべきである。
- ・ アンケート調査を含めた検証結果について、最終的にどのような形で市民に周知するのか。

事務局

- ・ 市ホームページでの今年度中の公開を考えている。

委員

- ・ ホームページは、若い人は見られるかもしれないが、高齢者は閲覧しにくい。広報とやまに掲載すれば高齢者もじっくり見ることができ、両方の媒体での公開を希望する。

事務局

- ・ 広報とやまへの掲載については、検証結果の量が膨大で全てを掲載することは困難であり、要約して掲載することの是非も含めて検討したい。

委員

- ・ アンケートの配布数について、その地域内にある地区ごとに均等配布されているのか。地域によっては、大型商業施設や総合病院等が充実していて全体的な満足度が高い地区とそうでない地区とで差があると想定されるため、今回の結果はあまり参考にならないのではないかと。

事務局

- ・ アンケート調査票の配布数については、地域内の細かい地区毎では配分していない。

委員

- ・ アンケート調査結果については、貴重な住民の声であり、一つの指針になると思う。
- ・ 「道路の整備状況、交通の便」の不満度が高いと思うが、そのほとんどは交通の便数への不満ではないかと思う。
- ・ 回答率が低い地域については、「回答しても変わらない」という思いから回答しな

かった人もいるのではないか。

委員

- ・ 報告書（案）92 ページに「市道の整備も進んだ」とある一方、アンケート調査結果では各地域において道路の整備状況に対する不満度が高くなっていることから、その記述は正しいのか疑問が残る。
- ・ 「若年層は（中略）高齢者ほど多くの不満を抱えていない」という記述があるが、実際に若者は地域を離れてしまっていることから、分析結果や記述との齟齬が感じられる。

委員

- ・ 数値結果はプラスにもマイナスにも捉えることができ、数字の独り歩きや一方的な解釈は避けなければならない。
- ・ 「若年層は（中略）高齢者ほど多くの不満を抱えていない」という記述について、単純に裏を返して「若年層は満足感を持っている」という捉え方をしてほしくない。
- ・ 報告書（案）92 ページの「コンパクト化も成果を挙げている」という記述について、今回のアンケート調査をどのように評価したことでそのように言えるのか。アンケートの自由記載の中には、「富山市の一部地域ばかりが優遇されて活気づいている」という指摘が多く、今回の検証においては解釈が正しいのか疑問が残る。

事務局

- ・ 報告書（案）29 ページには合併後に整備した市道路線を載せているが、これは整備実績を基に記載しており、アンケート調査結果とは必ずしも一致しない。

委員

- ・ どの年代、地域を見ても道路交通に関する不満が多くなっているようだが、交通の便に関して言えば、おでかけバスの利用時間の延長及び対象エリア拡大をお願いしたい。
- ・ 人口減少の問題については、報告書（案）93 ページに「少子・超高齢社会に対応できる持続可能な地域づくり」と記載されているが、そもそも少子高齢化にならないような対策を考える必要があると思う。
- ・ 総括に記載されている4つの課題に、5つ目として「地域の役場機能がなくなったことによる行政との希薄化」も追加していただきたい。

委員

- ・ 過疎地や中山間地では耕作放棄地が増加しており、環境問題にもつながることから、農業委員会を中心に基盤整備事業の課題の一つとして考えていただきたい。

委員

- ・ 今回のアンケート調査結果を見る上で、「合併の検証」と「現状の把握」とは分けて考える必要がある。「合併の検証」の観点では、本来比較すべきは17年前に「合併を選択しなかった場合の今」と「合併を選択した今」である。しかし、その比較は現実的に不可能であるため、仕方なく17年前（合併前）と今とを比較している。合併したかどうかにかかわらず人口は減少し、地域活動は縮小していったらう。
- ・ アンケートで、「合併して良かったか」を直接的に聞いても良かったかもしれない。結果を見てみると、「『合併したこと』を意識することはあるか」という聞き方になっており、これに「意識する」と答えた人の多くは合併したことに対して不満を持っていると思う。それに対し、「意識しない」と答えた人は不満を持っていない、つまり別の意味では「合併して良かった」と思っている人が多いと思われる。
- ・ 「現状の把握」の観点では、現状に対する満足や不満はいつでもあると思うし、その不満に対して今後どのように対応・対策していくかを考えることが重要である。

事務局

- ・ 委員ご指摘のとおり、「合併していなかったら」という仮定については、旧市町村がない以上調査ができない。また、合併したことによる人口の変化、財政的な豊かさについても同様に検証が難しいことから、今回のような形でのアンケート調査となった。今後必要なものについては合併の検証とは分けて考える必要があるとの認識である。

委員長

- ・ アンケート調査の内容を検討する際、「合併して良かったか」を聞く案も出ていたが、今回の調査結果からも分かるように7割の人が「ほとんど意識していない」と回答している。その上で合併のことを聞くとすると、市側で合併前後の変化に関する資料を作成し、それを見て回答してもらう必要があった。加えて、その資料が客観的に作成できるのか、また分量が膨大になるという問題もあり、現在の形に落ち着いた。
- ・ 道路の整備状況は、地域にかかわらず不満度が高く、若い人も比較的高い傾向にある。ただし、道路については絶対的な交通量の問題もあり、今回の検証結果によって、今後、事業の優先順位を変更するか、必要かどうかは別の問題として検討していく必要がある。なお、道路整備を考える際には、国道や主要県道等の骨格となる道路の交通量によるところもあるため、市道のみではなかなか判断できない部分がある。
- ・ 買い物施設の状況については、行政よりも民間の商業施設の影響を強く受けている。

- ・ アンケート調査のサンプル数については、なるべく地域間のバランスを崩さないように配慮したが、やはりサンプル数が少ない地域はばらつきや誤差が出てしまい、有意な結果が得られない場合もある。本来は市域全体で見るべきところ、地域別に見た場合の結果に関する要望もあったことから、今回は資料のとおり表している。なるべく数字が独り歩きしないよう配慮して正確に表したところである。
- ・ 今回の総括はあくまで計画に対する進捗状況を事実に基づいて総括しており、アンケート調査結果はそれを補完するものである。
- ・ コンパクト化に関する指摘については、報告書（案）30、31 ページで具体的な進捗状況を示すとともに、コンパクト化の程度や人口動態、他市町村の動向等と客観的に比較する必要があるものと併せて、事実として記載している。

委員

- ・ 報告書（案）はかなり詳しく書かれており、合併は上手く進んでいると直感的に思う。中山間地等で部分的に課題もあるが、それらは今回のアンケート調査結果を踏まえ、今後の計画に反映していくことが重要である。

委員

- ・ アンケート調査結果をいかに活用し、市民に周知するかが大事である。
- ・ 合併した理由について触れ方が弱いように思う。特に、なぜコンパクトシティ政策をする必要があったのか、ひいてはなぜ合併せざるを得なかったのかについて、しっかり書くべきだと思う。
- ・ 道路に関する不満が高いが、道路整備だけでなく交通手段の問題もある。どこでも不満の声はあるが、全体を見て判断すべきである。

委員長

- ・ コンパクト化については、今回の検証で可能な限り触れている。もともと低密度な都市として発展し、他都市と比較しても人口回復が遅いことを事実として指摘しており、今後どうしていくべきかを課題として挙げている。

委員

- ・ 合併の検証は非常に難しいことであるが、アンケート結果にかかわらず、事実を丁寧に重ねていくことで「検証」の意義は満たしていると思っている。
- ・ 地域別の意見はたくさん出たと思うが、逆に各地域に共通してみられる傾向として、地域における様々な活動への参加が低いことが挙げられる。
- ・ 住民が、自分の生活圏をどの範囲で捉えているかということは、合併したことの意識とリンクするのではないか。合併を「意識しない人」は実際の自分の生活圏を富山市と感じているし、「意識する人」の中でプラスの意味に捉えている人は、「中学校の選択制度を利用できた」、「保育所や幼稚園を選びやすくなった」等、生活す

る上で現富山市を生活圏として捉えているため、便利になったと考えていると思う。

一方「意識する人」の中でマイナスに捉えている人は、現在の区割りを自分の生活圏として捉えており、広くなった市域の中でも地域コミュニティを向上させていくことが課題であると認識しているのだと思う。

ただし、生活圏の捉え方は人それぞれでもあり、学校や職場、買い物に行くという意味での捉え方がある一方、旧富山市に住む人が細入や山田地域等の中山間地域をどの程度自分の生活圏として捉えているのか、という意識の問題もある。比較的便利な地域に住んでいる人が、中山間地域等にも生活する中で潤いを感じられるようになると良い。

委員

- ・ 合併をした理由は、人口減少を踏まえ、財政のスケールメリットを活かして行政サービスの平準化を実現し、維持していくことであったと思う。平準化はほぼ達成されたため、それをどのように維持していくかが重要である。
- ・ 人口減少については、報告書（案）55 ページにある平成17年と令和2年の比較において、富山市は1.7%の減少にとどまっているが、富山市を除く県内市町村は1割減少したということ、総括部分で再度記載したほうが分かりやすいのではないかな。

委員長

- ・ 総括部分については検討したい。

委員

- ・ 検証結果は、級地区分の統一や上下水道の料金体系等の客観的な指標と、満足度等の主観的な指標で構成されていると考えており、客観的な指標については極めて高い効果が出ていると思う。一方、主観的な指標については、不満度が高かったというよりも、満足度の向上に繋がるような富山市の政策効果が市民に浸透していないのではないかな。
- ・ 地域コミュニティやまちの活気等については、もはや年代によって定義が違っていると思う。世代ごとの満足度をしっかり分析しながら政策を進めていくべきである。

委員長

- ・ 報告書の全体像としては、1章から8章までは客観的な数字に基づいており、総括部分はその客観的な部分とアンケート調査結果の主観的部分を接合したが、両者にギャップがあるのも事実である。

検証報告は、事実に基づく検証とアンケート調査結果の両者について性格を分け

て整理し、各意見をさらに展開することは避けて4つの課題を柱としてまとめた
い。これまでに出了意見は、合併の検証ではなく各分野の課題として継続して検討
していただきたい。仔細の表現については委員長に一任いただきたいがよろしいか
(異議なしと呼ぶ者あり)。また、基本的な修正がある場合は別途ご連絡いただきたい
い。

- ・ 今後のスケジュールとしては、報告書の調整作業を経て、1月中に本委員会とし
ての意見を市長へ答申したい。

3 委員長挨拶

4 企画管理部長挨拶

5 閉会

以 上

富山市市町村合併検証委員会委員名簿

16名

No	区分	氏名	役職	備考
1	委員長	辻 琢也	一橋大学大学院法学研究科 教授	
2	副委員長	中村 和之	富山大学 副学長	12/26欠席
3	委員	石動 瑞代	富山短期大学 幼児教育学科 教授	
4	委員	尾畑 納子	富山国際大学 名誉教授	12/26欠席
5	委員	久保田 善明	富山大学 都市デザイン学部 都市・交通デザイン学科 教授	
6	委員	高木 繁雄	富山商工会議所 会頭	
7	委員	高城 繁	富山市社会福祉協議会 会長	
8	委員	高橋 明	日本政策投資銀行地域調査部 部長	
9	委員	宮口 侗廸	早稲田大学 名誉教授	
10	委員	北岡 勝	富山市自治振興連絡協議会 会長	
11	委員	長澤 邦男	大沢野地域自治振興連絡協議会 会長	
12	委員	山森 潔	大山地域自治振興会連合会 会長	
13	委員	中井 義則	八尾地域自治振興連合会 会長	
14	委員	茗原 勉	婦中地域自治振興連絡協議会 会長	
15	委員	山田 憲彰	山田地域自治振興会 会長	
16	委員	江尻 裕亮	細入自治会連合会 会長	
	オブザーバー	滑川 哲宏	富山県地方創生局市町村支援課 課長	